

自己評価結果公表シート

〔九十九里中学校〕

1 学校教育目標

礼節を重んじ、豊かな心とたくましさを持ち、自主的・自律的に生きる生徒の育成
合言葉 ～ 挨拶・返事・掃除・歌声 ～
～ 9 9 + 1 (プラスワン) ～

〔めざす生徒像〕

- 1 礼儀正しい生徒
- 2 よく働く生徒
- 3 思いやりのある生徒
- 4 やる気のある生徒
- 5 よく運動する生徒
- 6 よく学習する生徒

〔めざす学校像〕

- 1 生徒が楽しく登校できる学校
- 2 安全で安心して過ごせる学校
- 3 挨拶と歌声が響く学校
- 4 清潔で花いっぱい为学校
- 5 活気が満ちあふれる学校

2 本年度の重点目標・特色ある取組み

- (1) 礼節を重んじ、自らの判断で行動し、正しく生きようとする生徒を育む。
(心のこもった挨拶、清々しい返事の励行)
- (2) 変化する時代に対応して個々の夢を実現するために、自ら学び、努力を続ける生徒を育む。
(個に応じた指導の実践、I C T機器の活用を通じた学習内容の深化)
- (3) たくましく生き抜く気力・体力・学力を身につけ、自己を磨き、他を思いやる生徒を育む。
(無言清掃の励行、歌声活動の充実、適応指導の充実)

3 具体的な評価項目の取組・達成状況

(1) 礼儀正しい生徒・思いやりのある生徒の育成

①規範意識の醸成。	B	「あいさつや言葉遣い、身だしなみ(服装、頭髪)がきちんとしている」については、生徒・保護者ともに約9割が肯定的な回答をしている。全体的には生徒は礼儀正しく、日々落ちついた生活を送っている。規範意識については、校則を守って生活している生徒が多く、守ろうとする意識も高い。しかし、携帯電話の取り扱いでは、SNSによる人間関係のトラブル等が毎年発生しているため、携帯電話の使用の仕方についての指導を次年度4月に外部講師を活用しながら、啓蒙していく。 「交通ルールをきちんと守り、登下校している」については、生徒・保護者ともに肯定的な回答が多い。しかし、自転車の乗り方については、2列走行(並列)や携帯電話の校外での使用マナー(歩行中や走行中の使用など)で、地域の方から苦情をいただくこともある。また、保護者の車で送迎のため、渋滞が発生し、周辺道路利用者に迷惑をかけることもしばしばある。今後も、規範意識を含めて、指導を継続していく。 校則については、社会の変化に合わせた柔軟な対応で見直しを行っている。今年度の制服の変更を始め、来年度よりジャージ、体操服も新しいデザインに変わるため、これを機に再度校則についても確認していく。
②元気なあいさつ。	A	「あいさつや言葉遣いがきちんとしている」については、生徒・保護者ともにおよそ9割が肯定的な回答をしている。あいさつは、学校教育目標の柱の1つであり、今年度も職員自ら率先垂範を心がけて指導にあたった。毎年、何度か地域の方からあいさつについてお褒めの言葉をいただき、生徒の励みになっている。しかし、登下校指導の際や学校生活の中で、声が小さかったり、あいさつが苦手だったりする生徒も見られるため、自己肯定感やコミュニケーション能力を高めることも含め、今後も更なる意識の向上を目指していく。

③安心できる学校。	A	「学校に来るのが楽しい」については、生徒の肯定的な回答が、昨年度（87.1％）より若干増加している。新型コロナウイルス感染症の緩和後、生徒は行事を含めた学校生活を取り戻し、意欲的に学校生活を送っている。保護者の肯定的な回答も昨年度（78.4％）から大きく伸び、84.2％であった。これは、今年度、行事の公開や授業参観等を増やしたことが要因といえる。 「いじめのない集団づくり」については、生徒が9割の肯定的な回答をしているのに対し、保護者の肯定的な回答は8割を下回った。これは生徒間のトラブル（SNS関連を含む）が数件あったのが要因の一つといえる。 「困ったときに先生が相談に乗ってくれる」については、生徒の肯定的な回答が約9割、保護者の肯定的な回答が7割弱であった。学期に1回の教育相談週間を実施したり、相談しづらいと思っている生徒に対しては、授業や休み時間の観察の中で気になる場合に声かけをしたりして対応しているが、学校での様子が家庭に伝わらない部分が多いので、今後も保護者との連絡を密にし、信頼関係を築いていく。また、教職員のカウンセリングのスキルの向上を図るとともに、月に一度の生活アンケートを活用したり、教職員間の連携の強化を図ったりしながら、生徒一人ひとりの状況把握に努め、情報を共有し、素早く対応していく。
-----------	---	---

（２）やる気のある生徒の育成・よく働く生徒の育成

評価項目	結果	理由
①目標をもって前進する力の育成。	A	「学校行事や委員会等の生徒会活動」については、生徒・保護者ともに、約9割近くが肯定的な回答をしている。例年行われてきた行事や委員会活動が復活し、多くの生徒が行事や委員会活動への取り組みを通じて達成感を味わうことができた。 「自分には良いところがあると思う」については、8割弱の肯定的な回答であったため、今後も向上を目指し、生活に自信をもって行動できる機会を今後も継続して行っていきたい。また、教師の「褒める」という姿勢が自己肯定感を高める1つのきっかけにもなると考え、生徒のよいところ見つけていくことを視野に置いた指導を行っていきたい。
②地域の教育力を生かしたキャリア教育の充実。	A	「キャリア教育の充実」については、1学年が「職業人に聞く」、2学年が「職場体験」、3学年が「模擬授業」など、わかりやすい活動もあるため、生徒・保護者ともに10割に近い肯定的な回答を得ている。資源回収や海岸清掃（今年度は県政150周年イベントに参加したため未実施）など、学校主体での地域活動への参加はしているが、「地域の活動に参加」への評価が生徒・保護者ともに肯定的な回答が低い。学校を通じて町のイベント参加募集も随時あるので、情報提供を行いながら、参加への機会を増やせるようにしたい。また、今後も地域人材を活用しながらご協力をいただき、さまざまな業種と関わったり、いろいろな方々の人生観を学んだりすることでキャリア育成にも結びつけていきたい。

（３）よく運動する生徒の育成

①基本的な生活習慣は身に付いているか。	B	生徒の9割が、「朝食を毎日食べている」と回答している。また、「平日1日の平均睡眠時間」は6時間以上の生徒が8割以上であることから、比較的基本的な生活習慣が身に付いているといえる。しかし、携帯電話やパソコンの利用時間（学習目的以外）の割合が3時間以上の生徒が半数近くいることから、いつでも生活習慣が乱れる可能性が高い。使用時間のルールづくりなど、学校だけでなく家庭での協力も必要である。 心身の健康を保つ上でも朝ご飯、睡眠は重要であり、学校では、様々な活動を通して生徒自身が自分の健康管理ができるように指導し、家庭との連携を図りながら生徒の意識向上に努めていきたい。
---------------------	---	--

②部活動の充実	A	生徒数の減少による部活動数の削減から3年が経とうとしている。現在、部活動の加入数は、全体の73%で、各々が大会等での入賞に向けて頑張っている。また、社会体育やクラブ活動など外部団体に参加している生徒も全体の9%おり、各種大会で活躍している。特に柔道や水泳では関東・全国で活躍する生徒もいる。今後は、部活動の地域移行にともなった体制づくりが必須となっており、町の協力のもと、推進していく。
---------	---	---

(4) よく学習する生徒の育成

①学習規律・学習習慣が確立している。	B	「わかりやすい授業」「授業での教材等の工夫」への肯定的な回答が、生徒が9割以上、保護者が8割以上と高く、授業へ意欲的に取り組んでいる生徒も多い。そのため学習規律も確立している。 家庭での学習習慣では、学習時間が0～2時間未満の生徒が、昨年度(71.8%)よりは割合は減ってはいるが多い。勉強しない理由として、「勉強の方法がわからないから」という声も多いため、教員による家庭での学習方法を指導してきた。これからは学校では、引き続き家庭学習の方法を周知するとともに、生徒が気軽に尋ねやすい環境、尋ねられる生徒の育成に力を入れていく。また、家庭と学校が連携を図り、喫緊に取り組むべき課題の1つとして捉え、協力体制を深めていきたい。
②授業の充実。	A	「わかりやすい授業を行っている」については、生徒は約9割以上、保護者は約8割の肯定的な回答をしている。今年度も1、2年生は年2回、3年生は年6回の実力テスト、共通で4回の定期テストを実施し、結果を考察しながら、基礎学力の定着を把握している。学力向上の手立てとしては、ICT機器の活用した授業実践、確認テストや必要に応じた補習を実施した。また、今年度も全国学力・学習状況調査において、思考力・判断力・表現力の結果が低かったため、授業の工夫改善の一環として、授業の最後に自分で授業の感想や気づいたことを書かせることに努めた。始めて2年目ということで、月に数回、文字数を増やし書かせる取り組みも取り入れている。回数を重ねるごとに、各々の書く力の成長がみられ、次年度も引き続き実施していく。

4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理 由
A	9項目中、A評価が6項目、B評価が3項目であり、総合評価はAとした。 本年度の学校教育目標を達成するため、重点目標を定め、様々な取り組みを行ってきた。今年度は教育活動も従来通りにほぼ戻っている。 行事も多く実施できており、生徒にとっても充実した1年であったと考える。 教育課程は、年末に感染症による学級閉鎖もあったが、柔軟に対応し、各教科の授業実施率はほぼ100%を達成できそうな見通しである。 喫緊の課題として、学習習慣の確立、学力向上への対応、長期欠席生徒への対応、交通ルールの遵守、携帯電話の使い方等があげられる。1つ1つ丁寧に、チーム学校として、生徒の視点を大切にした指導に取り組み、今後も信頼される学校づくりを推進していきたい。

5 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
学力の定着 (基礎・基本の定着)	○わかりやすく、興味・関心を引き出す授業の展開 ・主体的・対話的・深い学びの確立（研修の充実） ・生徒の学習意欲を引き出す指導方法の工夫 ・相互授業参観 ・ICT機器の積極的な活用 ○くり返し学習の充実 ・家庭学習の習慣化と内容の充実 ・長期休業中の補習 ○学習規律の確立 ○思考力・判断力・表現力の向上 ・毎回授業の終わりに、自分の言葉で振り返りや気づきをまとめる。
生徒の視点に立った 学校づくりの推進 (長期欠席生徒の解消)	○学校生活の更なる充実 ・基本的な生活習慣 ○達成感、成就感のある学校行事の企画運営 ・充実した話し合い活動の推進 ○生徒理解のための相談活動とスキルの向上 ・生徒とのコミュニケーションスキルの向上 ○いじめ防止対策の徹底
清掃活動についての意識高揚	○清掃活動に対する意識を高める手だての工夫 ・教職員の率先垂範 ・管理分担に責任をもたせ、活動内容を明確化 ・生徒会活動による相互点検の充実と自主改善
積極的なあいさつへの取り組み	○あいさつへの意識の向上（受動から能動へ） ・相手に敬意を払い、場に応じたあいさつの実施 ・生徒会活動（生活委員会）によるあいさつ運動の充実 ・教職員の率先垂範
望ましい判断力・行動力の育成	○規範意識の醸成 ・道徳教育の充実 ・交通ルール遵守 ・情報モラル教育の推進（携帯電話利用マナー等） ・教職員共通理解のもと、チャンスを見逃さない指導を心がけ、毅然とした態度で「ダメなものはダメ」と根気強い継続した指導 ・対処的ではなく、積極的な生徒の内面に迫る指導